

【様式 1】

令和 7 年度戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業  
実証事業 令和 7 年度採択校フォローアップ調書  
(令和 8 年 4 月交付分)  
法人名：国立大学法人東海国立大学機構 大学名：岐阜大学

(1) 取り組みの対象テーマ

取組テーマ	○	観点 2：社会実装・イノベーションの推進
		観点 3：地域貢献の強化

(2) 2 年目交付による取組計画と見込まれる効果（令和 8 年度）

2 年目となる令和 8 年度は、令和 7 年度に引き続き環境・体制整備を行うとともに、社会実装研究の推進やマネジメント改革などに取り組み、「キャンパスまるごと共創型社会実装大学」への変革を着実に進める。

(2) - 1. 提案する取組の具体的な内容と実施計画

多様性と卓越性の強化 ※下段は KPI 及びマイルストーン

具体的な内容	R7 計画	R8 計画	R9 計画
外国人研究者による戦略的論文投稿等の支援	外国人研究者の招へい・指導等の試行	外国人研究者の招へい・指導等の実施	外国人研究者の招へい・指導等の実施
国際研究ネットワーク形成	連携施策の検討	URA 雇用、連携施策の相手先調整	URA 雇用、連携の試行
TOP10%ジャーナル論文割合	23%	24%	25%

(構想調書より抜粋)

構想調書	R7 実績 (R8.1 時点)	R8 計画
外国人研究者による戦略的論文投稿等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人研究者の招へいを企画・調整し、3 月に招へい予定。招へい研究者により、論文執筆支援や実験指導など戦略的な論文投稿支援に取り組むこととしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度から引き続き、4 月に外国人研究者による論文執筆支援や実験指導など戦略的な論文投稿支援に取り組む。</li> <li>R7 の試行を受け、さらに効果的な支援策を検討する。</li> </ul>
国際研究ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携機関である名古屋大学の戦略的パートナー大学の特徴等を分析し、本構想に最も適すると考えられる対象大学を検討した。</li> <li>国際連携担当 URA の公募を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際連携担当 URA を雇用し、同 URA により連携施策の対象大学（シェフィールド大学 AMRC 等）との調整を行う。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋大学及び同大学 Future Society Studio と、社会実装に必要な倫理的・法制度的・社会的課題の調査に向けた本構想の紹介や調整を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋大学と連携し、社会実装に必要な倫理的・法制度的・社会的課題の整理分析及び対応策の検討を行う。</li> </ul>

研究環境の整備 ※下段は KPI 及びマイルストーン

具体的な内容	R7	R8	R9
研究戦略の策定	研究 IR データ活用検討	研究戦略策定の試行	研究戦略検討・提示
共用機器の利用促進	URA 雇用 利用促進方策の検討	URA 雇用、広報媒体の作成、イベントの開催	URA 雇用、広報やイベントの拡充
新規共用機器の導入	機器選定	機器導入・利用開始	機器導入・利用拡充
共用設備の利用人数	延 1,000 人	延 1,050 人	延 1,100 人

(構想調書より抜粋)

構想調書	R7 実績 (R8.1 時点)	R8 計画
------	-----------------	-------

【様式 1】 令和 7 年度戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 構想調書

研究戦略の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究 IR データの活用に向け、論文データベースの名寄せなど環境整備に向けた調整を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究戦略担当 URA により、研究 IR 基盤を活用した研究戦略策定の試行に取り組む。</li> </ul>
共用機器の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内に存在する共用機器を一覧で表示できる外部向け Web サイトの構築に向け、検討を行っている。年度内に公開予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報戦略担当 URA を雇用し、共用機器の更なる利用拡大に向け、広報媒体の作成やセミナー等イベントの開催等に取り組む。</li> </ul>
新規共用機器の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンソーシアムにおける企業との共同研究に供する共用機器について、一部の機器を調達する見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たに大型の研究機器を調達するとともに、技術系スタッフを育成し、学内外の共用利用に供する。</li> </ul>

マネジメント改革 ※下段は KPI 及びマイルストーン

具体的な内容	R7	R8	R9
エンダウメント型大学経営の推進	リスク運用開始、アラムナイプラットフォーム導入、「経営者の会」活動強化、寄附者等と面談等	リスク運用拡充、アラムナイプラットフォーム運用、創立 80 周年記念事業、「経営者の会」、寄附者との関係強化等	リスク運用拡充、アラムナイプラットフォーム運用、創立 80 周年記念事業、「経営者の会」、寄附者との関係強化等
リスク運用額	5 億円	7.3 億円	14.8 億円
運用利益率	6%	6%	6%
寄附獲得件数	1,600 件	1,675 件	1,750 件
寄附獲得金額	12 億円	12.5 億円	13.7 億円

(構想調書より抜粋)

構想調書	R7 実績 (R8.1 時点)	R8 計画
エンダウメント型大学経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>償還期限を迎えた金融商品および大学経営自律化促進事業で集めた寄附金を原資として、リスク運用を開始した。</li> <li>アラムナイプラットフォームの導入のため、ベンダーと契約しシステムの導入を進めた。</li> <li>岐阜大学経営者の会を発足し、設立総会を開催した。併せて、大学公式 HP 内に Web サイトを開設した。</li> <li>ホームカミングデイにおいて、多額の寄附者への感謝状贈呈を実施し、終了後、学長・副学長との懇談会を行った。</li> <li>担当副学長およびファンドレーザーによる企業訪問を実施し、特に本学を卒業し自治体や企業等の要職に就いた者との面会に取り組み、関係構築・強化に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>償還期限を迎えた金融商品および大学経営自律化促進事業で集めた寄附金を原資に、リスク運用をさらに拡充する。</li> <li>導入したシステムの運用を開始し、活用促進のため認知度向上を図る。</li> <li>創立 80 周年記念事業の実施体制を確立し、寄附金募集を開始する。</li> <li>「岐阜大学経営者の会」において、大学との共創を通じて機能強化を図り、関係性をさらに深化する。</li> <li>ファンドレーザーを雇用するとともに、担当副学長等による企業訪問を継続的に実施する。</li> </ul>

社会実装・イノベーションの推進 ※下段は KPI 及びマイルストーン

具体的な内容	R7	R8	R9
社会実装研究コア設置及び共創研究の推進	社会実装研究コアの設置準備 コンソーシアムの組成準備	社会実装研究コアの設置 社会実装研究の実施	社会実装研究の規模拡大 新コンソーシアムの立案
社会共創拠点の整備	産学連携オープンイノ	コミュニケーター産学	コミュニケーター産学

【様式1】令和7年度戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 構想調書

	バージョン拠点事例調査、スペース整備、スタートアップ支援実施	交流拡大、スペース整備、スタートアップ支援、スタートアップ知的財産担当教員雇用	交流拡大、スペース整備、スタートアップ支援、スタートアップ知的財産担当教員雇用
社会実装のプロジェクト数	15	18	21
民間との共同・受託研究の受入額	8億円	8.5億円	9億円
スタートアップ設立数	3社	4社	5社

(構想調書より抜粋)

構想調書	R7実績 (R8.1時点)	R8計画
社会実装研究コア設置及び共創研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実装研究コア及び社会実装大学ガバニングボードの設置に向け、関連規則等の整備及び戦略的広報に必要なHP開設等の具体的検討に取り組んだ。</li> <li>社会実装研究コアに配置する研究者及びURA等の公募を開始した。</li> <li>配置人員の居室等の環境整備に取り組んだ。</li> <li>新たなコンソーシアム組成に向け、医学・農学系との調整に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実装研究コア及び社会実装大学ガバニングボードを設置し、事業推進体制を整備する。</li> <li>配置人員の居室等の環境整備に取り組む。</li> <li>新たなコンソーシアム組成等を通じて、社会実装研究を推進する。</li> </ul>
社会共創拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップ支援関係教員等の公募を開始した。</li> <li>TOIC岐阜サイトでのコミュニケーターの雇用に向け、先行事例の調査や契約調整等に取り組んだ。</li> <li>研究成果の社会実装に向け、岐阜県との調整に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たにコミュニケーターやスタートアップ支援関係教員を雇用し、産学交流やスタートアップ支援を拡充する。</li> <li>職員の交流や地元企業と大学との産学交流促進など、連携機関である岐阜県との連携を通じて大学の研究シーズと企業ニーズとのマッチングの更なる増加に取り組む。</li> </ul>

(2)-2. 提案する取組により想定される効果

取組	効果	想定される指標
研究力の卓越化支援	質の高い論文の増加	TOP10%ジャーナル論文割合
共用機器の利用促進	効果的な機器の運用	共用利用設備の利用件数
新規共用機器の導入		
エンダウメント型大学経営の推進	安定的な大学経営資源の確保	エンダウメント運用利益率 寄附金獲得件数、収入
社会実装研究コアによる共創研究の実施	地域企業の課題解決、新産業創出、大学における社会課題解決力の強化	社会実装のプロジェクト数 民間との共同・受託研究の件数・受入額 スタートアップ設立数
産学交流の推進		